

「年頭にあたり」



佐久穂町長
佐々木 勝

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年、皆様方には町政全般にわたり、温かいご理解とご協力をいただきありがとうございました。

さて、昨年は振り返るなかで、自衛隊に災害派遣を依頼した二つの大きな災害の話題を、外すことは出来ません。

4月5日に発生し、3日間余り燃え続け、家屋2棟と山林32ヘクタールを焼いた筆岩地区の大火災、そして10月12日の台風19号豪雨災害がそれです。

ここで、あらためまして被災されました皆様に、謹んでお見舞いを申し上げます。

とりわけ台風19号は、古谷ダムの上流で、24時間降水量が557ミリを観測する中で、町内の停電約2,300戸、断水約950戸と全町に影響を及ぼしました。役場における直近5か年間の年平均降水量は775ミリなので、年間降水量の約7割が1日で降ったこととなります。住家被害は、消失、全壊・半壊・床下浸水等で140棟以上となっており、工場や車庫等の非住家被害を合わせると225棟以上が、確認されています。

また、道路、河川等の被害箇所数は約560箇所にとり、災害復旧関連の補正予算額は約40億円となっています。当町の年間予算が70数億円となっていますので、約半分以上となります。この被害箇所数や予算額は、あくまでも町が事業主体となる事業に限られま

す。

このような被災の中にあつて、町消防団員、区長を始めとした地区役員、民生児童委員などの地域の皆様、避難誘導や洪水初期対応等を積極的に行い、自助・共助の力が大きく発揮されたと考えています。

また、被災当日を含め、昼夜を問わず警戒や応急対応等に奔走して頂いた自衛隊、警察、建設関係事業者の皆様、そして被災者に寄り添って頂いているボランティアの皆様など、町内外から沢山の皆様に、言葉では言い尽くせないほどのご助力を頂きました。心からの敬意と感謝を申し上げます。

さて、災害以外の行政運営に関して、6点ほど報告させていただきます。

1点目は、プールのブランド化についてです。

昨年、農家・JA佐久浅間・長野県・町が一体となり、プールのブランド化に向けての取り組みを進めています。高級フルーツ店の老舗である「榎新宿高野」様と提携して、10月の初めに東京で「佐久穂町産プレミアム・プーン宣伝イベント」を開催いたしました。

提供したものは、「オータム・キュート」という品種で、サイズ3L、糖度20%以上等を保証したものを、仮称ですが「プレミアム・プーン」と命名したものです。

店頭販売はもちろんのこと、プーンカット教室とパフェづくりの会も開催しました。訪れた皆様からは、色や果肉の厚みと甘さが高評価となりました。

今後、町内産農産物等のブランド化につながるよう努めてまいります。

2点目は、道の駅についてです。

八千穂高原インターチェンジ下の「仮称道の駅」計画地への、国土交通省による残土処分工事が終了いたしました。

町長コラム オール佐久穂のまちづくり

昨年は基本計画の策定に向けて、コンサルタントに業務委託し準備を進めてきましたが、台風災害の影響により、住民アンケート等スケジュールの、大幅な見直しをせざるを得ない状況です。防災面の要素や当面の南佐久郡玄関としての広域的展開等も想定して、検討を進めてまいります。

3点目は、駒出池キャンプ場、八千穂高原スキー場についてです。昨年の4月から、町直営の八千穂高原スキー場を民間譲渡、駒出池キャンプ場の指定管理者制度の導入へと、大きな変革期となりました。

キャンプ場の指定管理者からの報告では、利用者の延べ人数は、前年比14.5%の3万3千人以上で、利用料収入は、前年比23.5%の5千万円以上と、予想を上回る実績を上げられました。2年前に開通した八千穂高原インターも大きく影響しているようで、東京・神奈川・埼玉・千葉などの東京圏からの利用者が7割以上を占めているとのことでした。

八千穂高原スキー場については、まだシーズン途中ですが、12月の営業については、前年比17.5%の約7千8百人の来場者がありました。年末年始の営業だけを見ても、12月28日(土)から1月5日(日)までの9日間の来場者が7千7百人にのぼり、順調にスタートできたとのことでした。

また既存の観光業者も新しい観光をつくっていくと頑張っています。本誌の特集「佐久穂町観光ビジョン」がその成果です。「よい時間を、じっくり」という佐久穂町らしいコンセプトをもとに、各事業者が連携と切磋琢磨をしながらお客様により満足していただけるサービスを提供していくとのことでした。これからの佐久穂町の観光が本当に楽しみみです。

4点目は、新庁舎建設についてです。

昨年1月から本庁舎に着手しましたが、工期は遅れており、本年6月20日前後となります。主な理由は、制震ダンパー納期の遅れと、今回の台風災害復旧に伴う職人不足によりです。

竣工後に見学会等を開催し、7月23日からの4連休で引越しを行い、7月27日から新庁舎での業務開始を目指しております。

工事期間中、住民の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

5点目は、a b n「第19回ふるさとCM大賞NAGANO」最終審査結果についてです。

佐久穂町では、国道299号十石峠を中心に民間団体として活動している佐久穂いざら発掘隊と、群馬県上野村白井地区のみなさんが共同で制作した「峠でつながる人と人」が、県知事賞を受賞しました。昨年の「ふるさとCM大賞」に続く受賞となります。

この作品は、今後9月末まで50回程度放送されると聞いています。佐久穂町のPRに貢献すると考えています。

6点目は、大日向小学校についてです。

昨年4月10日に、学校法人茂来学園の大日向小学校が、旧佐久東小学校の校舎を利用し、開校しました。ドイツで生まれ、オランダで広まったイェナプラン教育を実践する日本で初めての私立の小学校です。

昨年の入学児童数は70名でした。県内からの入学は14名で、残る56名の児童は県外からの入学者です。居住地は、当町と佐久市が主となつていきます。

一昨年の12月末の学校認可から、わずか3カ月余りで、50名を超える児童と、そのご家族が、佐久地域に移住したことになります。そして大日向小学校全体では数百名以上の関係人口が生まれつつあると考えています。

今年4月にも、新たな入学者が、40数名予定されているそうです。今回の災害では、大日向小学校の教職員あるいは保護者の皆様に災害ボランティア活動等に積極的に参加していただきました。今までは、佐久穂町や佐久地域と何ら関係のなかった皆様が、ご支援頂いていることに、つながりの大切さを痛感しています。

以上、7点についてご報告申し上げます。これから、災害復旧事業が本格的に始まります。町では、各方面の支援を受けながら、そして町民の皆様のご協力の下、被災された皆様が一日も早く以前の生活を取り戻せるよう、職員一同全力で復旧、復興に向けて進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本年が皆様にとつて健康で幸せに満ちた年になりますようご祈念申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

